

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール



2010	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
9	私を見て! —ヌードのポートレート— 7月31日(土)～10月3日(日)	オノデラユキ ラビリス 写真の迷宮へ 7月27日(火)～9月26日(日)	 黒澤明生誕100年記念画コンテ展 映画に捧ぐ 9月4日(土)～10月11日(月・祝)	「未完成交響曲」 [ZERO](レイトショー) 9月11日(土)～9月24日(金)
10			第21回日本写真作家協会展 第8回JPA公募展 10月16日(土)～10月31日(日)	黒澤明映画特集 9月25日(土)～10月8日(金)
11	二十世紀肖像 全ての写真は、ポートレートである。 10月9日(土)～12月5日(日)	ラヴス・ボディ 生と性を巡る表現 10月2日(土)～12月5日(日)	写真新世紀東京展2010 11月6日(土)～11月28日(日)	「アニメ・ジュノー」 10月9日(土)～10月22日(金)
12			第11回上野彦馬賞 12月4日(土)～12月12日(日)	東京国際映画祭2010 東京・中国映画週間 10月23日(土)～10月27日(水)
2011	スナップショットの魅力 12月11日(土)～2月6日(日)	日本の新進作家展vol.9 ニュー・スナップショット 12月11日(土)～2月6日(日)	映像をめぐる冒険vol.3 3Dヴィジョンズ —新たな表現を求めて— 12月21日(火)～2月13日(日)	ショートショートフィルムフェスティバル & アジア2010 10月28日(木)～10月31日(日)
1	 かがやきの 瞬間	 かがやきの 瞬間		「アニメ・ジュノー」 11月6日(土)～11月11日(木)
2	第3回恵比寿映像祭 2月18日(金)～2月27日(日)			
3		夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史III 四国・九州・沖縄地方編 3月8日(火)～5月8日(日)	APA展 3月5日(土)～3月20日(日)	ポーランド映画祭(仮称) 11月12日(金)～11月26日(金)
4	梅坂篤里 芍薬 1931年 日本のピクトリアリズム展(仮称) 3月8日(火)～5月8日(日)		ベッティナ・ランス展 3月26日(土)～5月15日(日)	「ブラッド・ドミンゴ in Films」 オペラ映画フェスティバル2010 12月4日(土)～12月26日(日)

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日。11月8日は臨時開館) 年末年始(2010年12月27日～2011年1月1日)、2011年1月4日、2011年2月14日～2月17日および2月28日～3月4日
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売 お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。


東京都写真美術館 携帯サイトはこちら
 〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099
<http://www.syabi.com>


JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
 東京都写真美術館ニュース「アイズ10」67号 ●発行日：2010年9月7日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
 ●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2010 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE
eyes





デヴィッド・ヴォイナロヴィッチ 《無題(転げ落ちるバッファロー)》 1988-89年
 Courtesy of the Estate of David Wojnarowicz and P.P.O.W. Gallery, New York, NY

Topics

ラヴズ・ボディ—生と性を巡る表現

love's body art in the age of AIDS

1980年代から現在まで、多くのアーティストの命を奪ったエイズ。今回、唯一の日本人出品作家であるハスラー・アキラ/張由紀夫さんは、どのようにこの問題と向き合っているのでしょうか。彼の関わっている「Living Together計画」にある「ぼくたちはすでに一緒に生きている」という何気ない言葉にこめられた意味と、作品を作り続ける思いをうかがいました。



ハスラー・アキラ/張 由紀夫

東京都生まれ。京都市立芸術大学大学院絵画研究科修了。1993年よりHIV/AIDSをめぐる様々な活動を開始する。2000年よりハスラー・アキラの名前で作品を発表。コミュニティセンターaktaを運営するRainbow Ringのスタッフとして、HIV陽性者や周囲の人々への活動を積極的に行っている。

<Living Together計画>ホームページ:
<http://www.living-together.net/>

—アーティストになったきっかけ

この展覧会に出品することになったのは、僕にとってとてもタイムリーなことです。昨年春に新型インフルエンザが流行しましたが、この出来事は、僕に1990年代のエイズパニックを思い起こさせました。感染している人を洗い出して隔離しようとするとい

う社会の動きは、20年前と何も変わらなかった。日本人は何も学んでこなかったのかと、強い憤りを感じました。僕がHIVの活動を始めるきっかけとなったのは、学生時代にダムタイプのパフォーマーであった古橋梯二さんたちとの出会いです。僕にとって古橋さんの存在はものすごく眩しい存在で、ああいうアーティストになりたいと思えた人でした。ある日、彼は自身がHIVに感染していることを周囲の親しい人たちに向けてカミングアウトする手紙を書いたのです。自分はアーティストとしてHIVやセクシュアリティ、セックスや人間の生と死と対峙しながら、これからも活動をおこなっていきたくて。よかったです。皆さんと一緒にやってくれませんか、というような内容の手紙で、ぼくは働いていた画廊のディレクターを通して内容を教えてもらいました。最初はショックで落ち込んでいたものの、次第に、自分には何が出来るんだろうと考えるようになりました。

当時、世界のアーティストたちは、HIVのほかにもホームレス問題や、国境問題、戦争と平和や貧困など、様々な社会問題に対して活動を起こしたり、作品を発表したりしていました。そうした動きにも触発を受けましたね。アートという能力を持った人々が、目に見えないものをヴィジュアルで表現することの影響力は非常に大きなものだと思います。でも、社会問題をアートで伝えるという波が盛り上がりを見せる一方で、僕自身は次第に疑問を感じるようになりました。白いキューブ(白い壁の展示室)の中で作品を展示して、果たして何のためになるのだろうか? 誰の命も救えるわけじゃない...と。やがて、その思いは、僕を机上のものでなく、問題の現状を把握して支援へと繋げる、アクティヴィスト(活動家)へと突き動かしたのです。

—アクティヴィストとして

03年、厚生労働省のエイズ対策研究事業の一環で、Rainbow RingのスタッフとともにHIVの情報センター



AA ブロンソン 《アンナとマーク,2001年2月1日》 2001-02年

<akta>を設立後、最初におこなったのがコンドームのデリバリーボーイズプロジェクト、通称「デリヘル」です。セックスという営みは、食べる事や寝る事と同様のものならば、その中で使われるツール(コンドーム)をもっと日常の中に溶け込ませていくべきだと思ったんです。パッケージをイラストレーターや写真家の作品でデザインして飲食店などに置かせてもらいました。

さらに、HIV陽性者の支援団体「ぶれいす東京」とRainbow Ringが共同の呼びかけ団体として<Living Together計画>というプロジェクトを立ち上げて、ライブやラジオ番組などから多くの人々にメッセージを発信しています。この地球には様々な人間が生きていますよね。男性もいれば女性もいるし、ゲイもいれば異性愛者もいる。HIV感染者もいれば、感染していない人もいます。職業も性癖も立場もみんな違うけれど、ぼくたちはもうすでに一緒に生きているんです。差別や隔離などをして、人と人のふれあいを絶つことはできません。すべての現状を受け入れた上で、HIVは僕たち自身の問題なんだということを伝えたいのです。<Living Together>というと、とても耳障りのいい言葉ですが、いま起こっている問題と真摯に向き合い、すべてを受け入れ、そして、より良い状況にするためにどうしたらいいのかを考えるのは、実はとても難しいことだと思います。

—出品作品について

アクティヴィストとしてメッセージを伝えるには時間がかかります。様々な異なったベースラインに立つ人たちと信頼関係を築いていかなければならない。行政やメディアを相手にすることも大切で、かつ簡単ではない仕事になります。でも作品は自分の思いをそのまま形に表現できます。僕はアクティヴィストの活動をしていくうちに、アートだからこそ、できることがあるんじゃないかと、新しい気持ちでアーティスト



ハスラー・アキラ/張 由紀夫 《Red String》 2010年



フェリクス・ゴンザレス＝トレス 《[無題] (自然史)》 1990年、13点組の一部 © The Felix Gonzalez-Torres Foundation, Courtesy of Andrea Rosen Gallery, New York



エルヴェ・ギベール 《ヴィラ・メディチ》 1989年

として作品を作れるようになりました。

今回の展示には、オブジェと映像作品を出品します。どちらもテーマは「人と人とのふれあい」です。恋人、親子、友人、会社の同僚・・・親しい間柄にはいろいろありますが、僕は、本当の意味での親しい間柄って、たとえどちらかがなんらかのウイルスに感染していても血の交換をもいとわないうような、そんな関係をいうんじゃないかと思っています。これは亡くなった古橋さんの言葉なんです。日常生活ではわかりにくいかもしれないけれど、添い寝をしたり、料理をしたり、いろいろな時につながっていく“絆”を、赤い糸で表現しました。

オブジェの制作はすごく楽しかった!(笑) アクティヴィストとアーティスト、僕にとってはどちらも大切な活動だと思っています。

—今回の展覧会について

作家の杉浦日向子さんがアーティストを称して、「永遠に母親のお腹の中から世界に向かって腹を蹴り続ける胎児」とおっしゃっていましたが、今回の展覧会はまさにそんな胎児たちが集結した展覧会だと思います。

特に、AA ブロンソンの作品には涙しました。これは、ゲイカップル



スニル・グプタ 《ビクラム》 2007年



ピーター・フジャー 《ビー・スイート、ニューヨーク》 1985年 © 1987 The Peter Hujar Archive LLC, Courtesy of Matthew Marks Gallery, New York

とレズビアンカップルの間に生まれた子どもを抱いているんです。AAは80年代盛んに活動していたジェネラル・アイディアのメンバーでした。ほかのメンバーが次々とエイズで亡くなり、その後、一時期は活動ができなくなったり、死をテーマに作品を作っていたのですが、この作品がすばらしいのは、彼自身が確かに命をつないでいる、ということです。僕は、どんな形でも、人が命を前へ前へとつなげていくことは、生きていく中でとても重要なことだと思うんです。そうでないと、人類は終わってしまうかもしれない。

ヴォイナロヴィッチの《転げ落ちるバッファロー》は、アメリカ先住民族の狼のために追われて、次々と崖から落ちるバッファローをとらえたものです。僕たちは、エイズをはじめとしたさまざまな理由で追いつめられ、次々と自ら命を絶たざるを得ない問題と向き合っている。この展覧会に参加しているアーティストたちは、バッファローたちに「こっちに来ちゃだめだよ!」と、崖っぷちで背を向けて両手をひろげて止めているようなバッファローだと思います。人はいつか必ず死ぬものだけれど、いつか死ぬんだとしても、「ここから先は崖があるぞ!」と教えてくれる人が世界には必要です。「落ちないで」って泣きながら願う人も必要。ただ、落ちていくのを傍観して、あきらめているいるだけではだめなんじゃないか。

僕は、この展覧会を観る人たち自身のこととしてとらえてほしいと思います。世界で起こっている問題や、どんな小さなことでも、それを他人事としてとらえるか、自分の事としてとらえるかによって、人は大きく変わらと思う。崖を遠くから見ていた人たちが、崖の前で両手をひろげるきっかけになればと思います。

[2010年7月 インタビュー]

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

10月2日(土) → 12月5日(日)
11月8日(月)は臨時開館

ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現

love's body, art in the age of AIDS

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※毎週木曜日はカップルデー(カップルのうちお1人が無料。チケットをご購入の際に「カップルです」とお申し出ください)

- 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社 □ 後援：米国大使館
- 助成：芸術文化振興基金／財団法人石橋財団／財団法人アサヒビール芸術文化財団／Asian Cultural Council／オーストラリア大使館
- 協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／株式会社資生堂／凸版印刷株式会社／東京都写真美術館支援委員会
- 協力：アサヒビール株式会社／京都精華大学情報館メディアセンター／community center akta／ウェスティンホテル東京／TOKYO FM

当館では1998年11月に「ラヴズ・ボディ ノード写真の近現代」と題した展覧会を開催し大きな反響を呼びました。エロスや性幻想として描くノード写真を批判的に検証し、生と死をめぐる広汎で、複雑な身体表現の可能性を探る試みでした。なかでもエイズに関する問題提起は重要なもののひとつでした。

そして2010年。美術や写真の側面に大きな変化を与えるほどに影響力を持つエイズをテーマに「ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現」を開催します。多くのアーティストの命を奪ったエイズ。それによってあぶり

出された社会的偏見や差別といった「社会的病」は、セクシュアリティや他者表現、身体表現、アートと政治の問題など、新たな表現の可能性の中でさまざまな作品を生み出しました。1980年代から現在まで、新作も含め、8人の国内外作家をご紹介します。

[出品作家]

AA ブロンソン／ハスラー・アキラ(張由紀夫)／フェリクス・ゴンザレス＝トレス／エルヴェ・ギベール／スニル・グプタ／ピーター・フジャー／デヴィッド・ヴォイナロヴィッチ／ウィリアム・ヤン

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00～ ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

★アーティスト・トーク(逐次通訳付き)

日時：10月2日(土) 15:00～AA ブロンソン／16:00～スニル・グプタ
10月3日(日) 16:00～ウィリアム・ヤン
会場：2階展示室内
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

★対談「エイズとアート」

張 由紀夫 × 溝口 彰子(ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ)
日時：10月16日(土) 15:00～16:30
会場：1階創作室(アトリエ) 対象：展覧会チケットをお持ちの方
定員：70名 ※当日10時より当館1階受付にて整理券を配布します。

★スペシャル・イベント「Think About AIDS」【公開録音】

共催：Living Together 計画／Tokyo FM

朗読会(HIV陽性者の手記)＋ライブ・パフォーマンス
日時：11月8日(月・臨時開館日) 19:00～20:30
会場：1階ホール 対象：展覧会チケットをお持ちの方 定員：190名
※当日10時より当館1階受付にて整理券付き入場券を配布します。
※豪華ゲストを予定しています。最新情報は当館ホームページでご確認ください。

★ラヴズ・ボディ 特別講演会

堀江 敏幸(小説家、フランス文学者)
日時：11月13日(土) 18:30～20:00
会場：1階ホール 対象：展覧会チケットをお持ちの方 定員：190名
※当日10時より当館1階受付にて整理券を配布します。



ウィリアム・ヤン 《アラン》 1989-90年

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

10月9日(土) → 12月5日(日)
11月8日(月)は臨時開館

二十世紀肖像 全ての写真は、ポートレートである。

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料全

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協賛：凸版印刷株式会社 □ 協力：講談社

スタジオポートレート、シュルレアリスム表現、社会派ドキュメンタリー、都市のスナップショット、広告ファッション写真、個人的な私写真表現。人間をテーマとする写真作品は多様なスタイルによって時代の感性や美意識、理想と現実の姿を写し出します。いつの時代にも優れたポートレート(肖像)はモデルとなる人物の個性をありのままにとらえ、その内面性までも伝えようとします。20世紀の写真はそこからさらに人間の姿をより多様に、自由に表現してきました。たとえば、身体をものとして見せる表現、身体をモチーフとして鑑賞する者の想像力を刺激するような表現など、一見ポートレートに見えないような作品もまた、さまざまな価値観や生のあり方が変貌した激動の時代の「二十世紀肖像」

と言えるのではないのでしょうか。

本展は、「時代の肖像」「ドキュメンタリー」のなかの人間像「家族へのまなざし」「想像の身体」の4つのパートによって、ポートレートの可能性や人間をテーマとする写真の多様性と戯れながら、その魅力を探っていきます。写真史上の有名作品から目に触れる機会の少ない作品まで、時代を超えて魅力を放つ20世紀のポートレートを当館の豊富なコレクションよりご紹介します。

☒ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。



- 01. 植田 正治
「砂丘」より 少女たち
1945年
- 02. 有賀 馬五郎
本郷夫人 1926年
- 03. ヘルベルト・バイヤー
セルフ・ポートレート 1932年
- 04. 今 道子
「EAT」より 鮪と小鯨と柘榴
1990年

- 05. アウグスト・ザンダー
「時代の顔」より 拳闘家
1928年
- 06. フィリップ・ハルスマン
マリリン・モンロー 1952年
- 07. 奈良原 一高
「人間の土地」より
緑なき島 #28 1954-57年

- 08. 森村 泰昌
Mother (Judith I) 1991年
- 09. 福田 勝治
心の小窓 1949年

01 02 03

04
07 08
09

05 06

【主な出品作家】

有賀馬五郎、ウォーカー・エヴァンズ、アウグスト・ザンダー、植田正治、ハナヤ勘兵衛、福田勝治、ブラッサイ、マン・レイ、ヘルベルト・バイヤー、ハンス・ベルメール、岩宮武二、杵島隆、土門拳、林忠彦、奈良原一高、フィリップ・ハルスマン、早田雄二、立木義浩、細江英公、篠山紀信、藤井秀樹、操上和美、リー・フリードランダー、ニコラス・ニクソン、荒木経惟、沢渡朔、島尾伸三、鬼海弘雄、土田ヒロミ、橋口譲二、今道子、森村泰昌ほか



3F

3階展示室 Exhibition Gallery

10月3日(日)まで開催中!

私を見て! ~ヌードのポートレート~

社会や風俗、思想などが絡み合うヌードの表現。写真家たちは、敢えて服を脱いだ人を撮影することで、どのように時代をとらえようとしていたのでしょうか。当館のコレクションより150点をご紹介します。

□ 一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中高生・65歳以上 250(200)円

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

12月11日(土) → 2月6日(日)

日本の新進作家展vol.9
ニュー・スナップショットかがやきの
瞬間

Contemporary Japanese Photography vol.9

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞 □ 助成：財団法人地域創造
□ 協賛：東京都写真美術館支援会員

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場となるよう、平成14年より「日本の新進作家展」を開催しています。9回目となる今年度は、スナップショットをテーマに取り上げます。

スナップショットは、その起源以来人々のあらゆる生活の場面を捉えてきましたが、本展では、楽しさ、幸せ、喜びの瞬間など、明るい側面に注目し、現代の写真表現に新たな

可能性を見出す、若手作家や才能のある作家6人を紹介します。

20世紀前半、カメラの小型化にともない、スナップショットはアマチュアカメラマンの間に広く普及しました。アンリ・カルティエ＝ブレッソンをはじめ多くのプロ写真家たちにも最も身近でポピュラーな撮影スタイルとなり、それは現代の若い世代にも脈々と受け継がれています。近年ではカメラのデジタル化や携帯化に伴い、誰もが写真を撮り、それを発



1 中村 ハルコ 「光の音」より 1993-98年

表する場も飛躍的に増えています。さらにと光る「かがやきの瞬間」を捉えたスナップショットを通して、未来の写真表現の動向と可能性を探り、人々を楽しくワクワクさせる写真の力を再確認してみたいかが

でしょうか。同時開催の「スナップショットの魅力」展(次項)とあわせてお楽しみください。

■ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

出品作家

1 中村 ハルコ Nakamura Haruko

1962年 埼玉県生まれ。
イタリアのトスカーナの牧歌的な生活を鮮やかなカラーで表現した「光の音 pure and simple」から紹介。

2 小畑 雄嗣 Obata Yuji

1962年 神奈川県生まれ。
北海道のスケートのシーンを中心に、清々しい冬の空気を捉えた「二月」(Wintertale)から紹介。

3 白井 里実 Shirai Satomi

1972年 東京都生まれ。
ニューヨークに住み、異文化に同化する心理的变化をテーマにした作品「New York in My Life」から紹介。

4 池田 宏彦 Ikeda Hirohiko

1971年 東京都生まれ。
中東を旅してイスラエルに長期滞在し、砂漠の風景を捉えた「at Negev」から再構成した作品を紹介。動画も上映。

5 山城 知佳子 Yamashiro Chikako

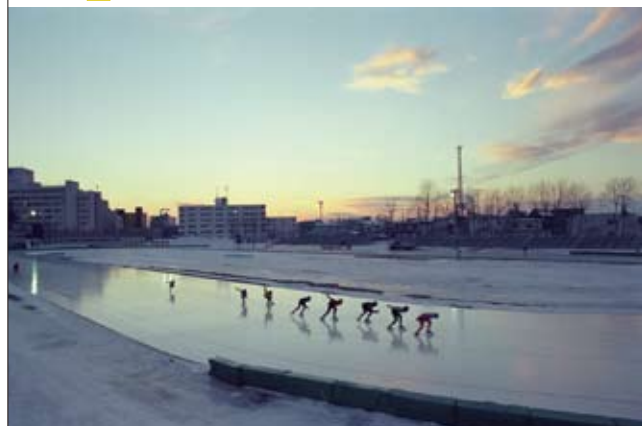
1976年 沖縄県生まれ。
映像・写真・パフォーマンスなどマルチな表現を行う彼女が、本展では写真のストレートな表現に挑む。現在作品制作中。

6 結城 臣雄 Yuki Shigeo

1945年 宮城県生まれ。
2000年以降の東京の膨大なスナップショットから紹介。変化する都市の、リアルタイムの姿とノスタルジーに触れる。

6 結城 臣雄
「Diary Someday, Somewhere」より
2001-2006年
(参考図版)

2 小畑 雄嗣 「二月(Wintertale)」より 2007年



3 白井 里実 「ニューヨーク・イン・マイ・ライフ」より 2008年



4 池田 宏彦 「at Negev」より 2002年



5 山城 知佳子 「complex vol.1」 2007年 (参考図版)



3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月11日(土) → 2月6日(日)

スナップショットの魅力

かがやきの瞬間

 一般 500(400)円 学生 400(320)円 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

 主催：東京都 東京都写真美術館

アンリ・カルティエ＝ブレッソン、ジャック・アンリ＝ラルティエーら20世紀の写真家たちが確立したスナップショット。本展では歴史的な変遷や、現代社会との接点を探ります。

1968年、暗殺されたロバート・F.ケネディの遺体を、NYからワシントンDCに電車で移動させる際に、哀悼するアメリカ国民の姿を車窓から捉えたポール・フスコの名作「RFK Funeral Train」をスペシャル・フューチャーするほか、今年度の新規収蔵作品を初公開します。

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。



ポール・フスコ RFK Funeral Train, 1968年
© Magnum Photos. Courtesy Danziger Projects, New York.

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

9月4日(土) → 10月11日(月祝)

黒澤明生誕100年記念画コンテ展 映画に捧ぐ

 一般 1,000(800)円 学生 800(640)円 中高生・65歳以上 700(560)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

 主催：ホリプロ/角川書店 共催：東京都写真美術館
 協力：黒澤プロダクション/角川映画/東宝/松竹/ワーナー・ホーム・ビデオ/「海は見ていた」製作委員会/龍谷大学/レストラン黒澤グループ 後援：文化庁/日本映画製作者連盟/ユニジャパン 企画・所蔵：ホリプロ


乱「草原・巻狩の秀虎」

©Kurosawa Production Inc. Licensed exclusively by HoriPro Inc.

※トークショー：『乱』のアーカイブ資料を読み解く(仮題)

日時：9月25日(土) 16:00 1階ホール

熊田 将彦氏(黒澤プロダクション) × 岡田 至弘氏(龍谷大学教授工学博士)

※展覧会または映画鑑賞券をお持ちの方はどなたでもご参加いただけます(無料/先着順)

Film 「映画に捧ぐ」特別上映企画

■1階ホール(映画館190席)

■9/25～10/1 ※9/27休映

「静かなる決闘」、「乱」

■10/2～10/8 ※10/4休映

「羅生門」、「まあだだよ」

※別途映画鑑賞券が必要です。

展覧会の半券持参1,300円/

料金(当日券)一般1,500円/

学生1,300円/中学生以下・シニア(60歳以上)1,000円



©角川映画

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

11月6日(土) → 11月28日(日)

11月8日(月)は臨時開館

写真新世紀東京展2010

New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2010

 入場無料 主催：キヤノン株式会社 共催：東京都写真美術館

キヤノンの文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、新人写真家の発掘・育成・支援を目的に今年で20年目を迎えました。これまでに国内外で活躍する多くの写真家を輩出し、新人写真家の登竜門としても認知度の高い公募展です。

今年の公募には、1,276名の応募がありました。本展では、応募作品の中から選ばれた優秀賞・佳作受賞作品とともに、昨年のグランプリ クロダミサト氏の新作をご紹介します。フレッシュで力強い作品の数々をお楽しみください。



写真新世紀東京展2009 展示風景より

◎お問い合わせ >> キヤノン(株)写真新世紀事務局
03-5482-3904

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

10月16日(土) → 10月31日(日)

第21回日本写真作家協会展 第8回JPA公募展

 入場無料 主催：日本写真作家協会 共催：東京都写真美術館

今年で21回目となるJPA展は、日本写真作家協会の会員による約180点の作品が展覧されます。また、第8回目となる公募展には全国の応募作品から選ばれた入賞・入選作166点を展示いたします。

◎お問い合わせ >> 一般社団法人日本写真作家協会 03-3535-6251

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

12月4日(土) → 12月12日(日)

第11回上野彦馬賞

九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

 入場無料 主催：毎日新聞社/九州産業大学

21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とし、わが国の「写真の祖」として尊敬されている「上野彦馬」の名を冠した「上野彦馬賞-九州産業大学フォトコンテスト」。9月17日まで募集される作品から、入賞した作品をご紹介します。展覧会です。

◎お問い合わせ >> 毎日新聞福岡本部事業部 092-781-3636

映像をめぐる冒険vol.3 3Dヴィジョンズ -新たな表現を求めて-

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
 □ 支援：文化庁メディア芸術人材育成支援事業 □ 助成：公益財団法人 野村財団
 □ 協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社 □ 協賛：凸版印刷株式会社
 □ 後援：サンケイスポーツ／タカフジ／フジサンケイビジネスアイ／iza!／SANKEI EXPRESS

東京都写真美術館開館以来の映像部門基本コンセプトである5つのテーマ「イメージーションの表現」「アニメーション」「立体視」「拡大と縮小」「記録としての映像」について、毎年ひとつずつ取り上げ、収蔵作品を中心に、多彩な特別展示とあわせて構成していくシリーズ企画「映像をめぐる冒険」。3回目となる今年は、3D映画などで使われている視覚原理「立体視」がテーマです。平面にあるはずの画像が飛び出して見える立体視ですが、今回は3D映画やアトラクションのようなスペクタクル性を追求するので



《クリスタルパレス》 ヘンリー・ネグレッティ&ジョセフ・ザンブラ 1851-1852年頃



《Allegory of Media Art》 津島 岳央 2006年

はなく、立体視という表現手法に何が可能なかを検証します。19世紀中頃から近代までの原始的な立体写真や立体視装置と共に、立体視を利用した現代の作品を展示し、表現手法としての立体視を多角的に検証します。さらに、そうしたメディア探求から生まれる表現の一つの到達点として、メディアアーティスト藤幡正樹の作品を展示します。

※ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00～
 ※ 本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

§1章 浮遊する視覚

絵画の世界では、奥行きを表現するために空気遠近法や一点透視図法など様々な手法が試みられてきました。19世紀中頃になると右目と左目の視野のずれを利用し、立体的に奥行きを表現する立体視の原理と装置が発表されました。立体視のこれまでの平面的な奥行き表現を超えた新しい立体感、人々に驚きを与え広く普及していきました。1章では1851年にロンドン万博で紹介されたクリスタルパレスの立体写真など初期立体写真にとって重要な作品や資料を十数点紹介します。

あわせて、CGなど現代のテクノロジーと初期立体視の仕組みを組み合わせさせた津島岳央の新作を展示します。

▶ 津島 岳央(つしま たかひろ)／1981年大阪府生まれ。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業。フェルメールの絵画空間をCGと立体視を用いて多視点で捉えなおす《Allegory of Media Art》が、文化庁メディア芸術祭などで高評価を受ける。

§2章 メカニズムへの焦点

立体視のメカニズム自体は非常にシンプルなものなので、それを利用した様々な装置が生み出されてきました。例えば、立体的なスライドショーを見ることが出来る玩具 ビューマスターや赤青メガネをかけた絵が飛び出して見えるアナグリフ、その他ステレオカメラやステレオビューワーなど20世紀中頃までの装置を数十点紹介し、立体視効果を利用するための様々な仕組みを検証します。

あわせて、アナグリフの仕組みを利用して、自分の影を立体的に見せてくれる五島一浩の《STEREO SHADOW》を展示します。最も原始的な映像体験である影の動きが立体的に見える様をお楽しみください。

▶ 五島 一浩(ごしま かずひろ)／1969年静岡県生まれ。代表作のモノクロCGアニメーション《FADE into WHITE》シリーズ他CGアニメーション作品、映像作品多数。ロカルノ映画祭など海外でも高く評価されている。現在、岡山県立大学、イメージフォーラム映像研究所非常勤講師を務める。



ビューマスター型ステレオビューワー 1850年

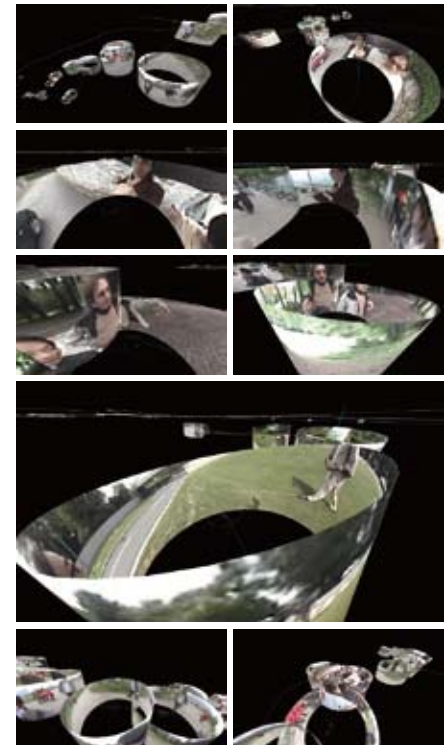


《STEREO SHADOW》 五島 一浩 2008年

§3章 探求からの昇華

3章では、コンピュータやモバイル機器など様々なテクノロジーが生活に定着した現代における、立体視を使った表現の一つの到達点として、藤幡正樹の「Field-works」シリーズを紹介いたします。「Field-works」は、世界各地で、ひとびとの活動とその場所を同時に記録することをテーマに行われてきました。藤幡はGPS(地球上の現在位置を調べるための衛星測位システム)とビデオカメラを持ってフィールドワークを行い、リニアな映像記録を撮影しながら、同時にGPSで移動の軌跡を記録。両者をコンピュータ上で対応させ、3D技術を用いて提示することで、全く新しいビデオアーカイブを作り出します。今回展示される《故郷とは? ジュネーヴにて/Landing Home in Geneva》は、ジュネーヴへ移住して通訳として働く人々に取材したものです。GPSが記録する客観的な情報と、全方位カメラで撮影した個人的な物語や交流の軌跡が掛け合わされることで、国際都市としてのジュネーヴが持つ場所性が浮き彫りにされます。

▶ 藤幡 正樹(ふじはた まさき)／1956年東京都生まれ。80年代はコンピュータ・グラフィックスのパイオニアとしてSigGraphなどでアニメーション作品を発表。89年から慶應義塾大学環境情報学部で教鞭を執る傍ら《Beyond Pages》などのインタラクティブな作品をつぎつぎと発表。現職、東京芸術大学大学院映像研究科科長。



《故郷とは? ジュネーヴにて/Landing Home in Geneva》 藤幡 正樹 2005年

Film 『未完成交響曲 ～シューベルトの恋～』

シューベルトの名曲がちりばめられた音楽映画の金字塔!

無名の作曲家シューベルトの才能を認める歌手ショーバー若き芸術家仲間の4人はシューベルトのために老舗ガラス器具商チェル家の三人姉妹の末娘、ハンネレルを紹介する。やがて彼女に恋心を抱いたシューベルト。ところが、秘かにハンネレルに想いを寄せるのはシューベルト1人ではなかった...



写真提供: T&Kテレフィルム
上映スケジュール: 9月11日(土)~9月24日(金)
料金: [当日券]一般 1,800円/シニア 1,500円/小・中学生 障害者手帳をお持ちの方 1,000円

作品について: T&K テレフィルム
スケジュール他: 東京都写真美術館 03-3486-6881

Film 『アニメ・ジュノー』

二人の少女が見た、一人の医師の物語

修学旅行で広島平和記念公園を訪れた中学生の美依と優子は公園の片隅に立つ「マルセル・ジュノー博士」の顕彰碑を見つけた瞬間、突然、不思議な光に包まれ70年以上前のヨーロッパへと導かれます。国を超え、人種を超えて、無償の愛に生きたスイス人医師「マルセル・ジュノー」の生涯を描く感動アニメーション。



上映スケジュール: 10月9日(土)~10月22日(金)
料金: [当日券]一般・学生 1,200円/シニア(60歳以上) 1,000円/小学生以下 500円

アニメ・ジュノー制作委員会 082-223-0790

カフェ 『シャンブル クレール』

営業時間 [1階] 10:00-20:00 (日曜日は18:00まで)
※2階は、9/1より無料の休憩コーナーになりました。
◎お問い合わせ: Tel.03-5798-2218

ほど良くビターなテリヌにチェリーソースでアクセント。ブラックコーヒーとの相性は最高です。



チョコレートテリヌ 650円(税込)

ミュージアムショップ 『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
◎お問い合わせ: Tel.03-3280-3279

小木曾瑞枝さんのデザイン画を使用した写美オリジナルのエコバッグです。スウェーデン語で「私は木を植える」と記されています。

L サイズ 茶色のみ (限定数) 735円(税込)
M サイズ 緑色・青色・青緑色 各525円(税込)



友の会 Support

展覧会のご招待・割引、1階上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費 個人会員 2,000円
家族会員(同伴者1名まで) 3,000円
シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
※会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。 Tel.03-3280-0099(開館時間中)

Table with columns: 友の会特典, 特典内容, 収蔵展・映像展, 企画展・誘致展, ミュージアムショップ, その他

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- List of corporate members including: 特別賛助会員 (キヤノン株式会社, キヤノンマーケティングジャパン株式会社), 特別支援会員 (株式会社キタムラ, 大日本印刷株式会社), 支援会員 (株式会社&S BBDO, 株式会社アイデム), and others.

(平成22年8月現在・五十音順)